

2022 連合平和行動in沖縄

参加者からの

ピースメッセージ

6月23日～6月25日の3日間、平和行動in沖縄に参加させていただきました。

初日は、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館の見学と平和オキナワ集会へ参加しひめゆりの塔では、涙ながらにひめゆり学徒隊の説明をするガイドさんの姿や祈念資料館の生存者証言本の内容から、沖縄戦の悲惨さを痛感しました。

2日目はピースフィールドワークへ参加し、辺野古キャンプシュワブ、嘉手納基地、チビチリガマ、嘉数高台(普天間基地)を案内していただきました。

辺野古ビーチ(瀬嵩の浜)の美しい景観の中にある、基地建設の風景は異様な物を感じ、住宅街と隣接する巨大な普天間基地を目の当たりにした時は恐ろしさを感じ、今なお沖縄では戦争が続いており、沖縄に住む人の安全・安心を脅かす、大きな問題として沖縄事とせず日本の問題として皆が捉える事が大事だと実感しました。

チビチリガマでの集団自決の話聞いた時は、胸を締め付けられる思いがし、数十年後に高校生がガマを破壊した事を聞いた時は悲しくなり、また語り継ぐ事の大切さを実感しました。(Oさん)

沖縄返還50年の年に平和行動ができた。また、6月23日は77年の「慰霊の日」であった。ひめゆりの塔/資料館では当時の物、当時の映像などが印象的であった。また、普天間基地、辺野古など基地問題や騒音問題など今なお危険と隣り合わせで生活を強いられている住民が居るという事を知った。

沖縄で何か事故が起きたらアメリカ優位に物事が解決されてしまうなどまだまだ日米地位協定の問題が残っている。そしてこのことが沖縄県民にとってまだ戦争は終わっていない、本当の平和が訪れない、不安と隣り合わせの日常だと考えさせられた。

私たち本土で生活しているとニュースや新聞で沖縄の事を聞いていたが、実際本当の問題を知れていない恥ずかしさも湧いてきた。

たった二日間ですべてを学ぶことはできないので本土にても沖縄問題、平和についても勉強していきたいと感じた平和行動だった。(Tさん)